

三重県経済の現状と見通し <2014年11月>

1. 景気判断 一覧表

部門	個別項目	基調判断(方向等)	基調判断の 前月との 比較(注1)	水準評価 (注2)
		詳細		
総括判断	景気の現状	<p>景気は減速の動きが持続</p> <p>消費増税前の駆け込み需要に対する反動が根強く残るなか、消費の足踏み状態が続くなど、県内の景気は減速の動きが持続。</p>	→	
	当面の見通し	<p>景気は緩やかに持ち直していく見通し</p> <p>駆け込み需要の反動によるマイナス影響が解消に向かうなか、生産や公共投資を中心に景気は緩やかに持ち直していく見通し。</p>	→	
家計部門	個人消費	<p>足踏み</p> <p>新車乗用車販売台数(含む軽)は4か月連続の前年比減少。</p>	→	
	住宅投資	<p>一進一退</p> <p>住宅着工戸数は2か月振りの前年比減少。</p>	→	
	観光	<p>減少傾向</p> <p>県内主要観光施設(15施設)の入込客数は、5か月連続の前年比減少。</p>	↘	
	雇用・所得	<p>横這い</p> <p>有効求人倍率(季節調整値)が5か月振りの前月比上昇となったほか、新規求人数(学卒・パートを除く)も3か月振りの前年比増加。</p>	→	
企業部門	企業活動	<p>好調</p> <p>鉱工業生産指数は電子部品・デバイスが好調に推移し、9か月連続の前年比上昇。</p>	→	
	企業倒産	<p>小康状態</p> <p>倒産件数が2か月連続の前年差増加ながら、負債総額では前年差減少が持続。</p>	→	
	設備投資	<p>低調</p> <p>非居住用建築物着工床面積は、3か月連続の前年比減少。一方、貨物車登録台数は6か月連続の前年比増加。</p>	→	
海外部門	輸出	<p>一進一退</p> <p>四日市港通関輸出額は、2か月振りの前年比増加。</p>	→	
公共部門	公共投資	<p>足踏み</p> <p>公共工事請負金額は、2か月振りの前年比減少。</p>	↘	
その他	物価	<p>上昇</p> <p>消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、16か月連続の前年比上昇。</p>	→	

(注1)「基調判断の前月との比較」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、↗：上方修正、⇄：据え置き、↘：下方修正を示す。

(例えば、「回復」「減速」となれば下方修正、「回復」「回復」なら据え置き、となる)
したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

(注2)「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、
：晴、|：晴～曇、：曇、|：曇～雨、：雨、を示す。

お問い合わせ先	三重銀総研 調査部 畑中
	電話：059-354-7102 Mail：mir@miebank.co.jp

2. 個別部門の動向:家計部門

個人消費	足踏み	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	

現状

個人消費は、足踏み。

まず、『家計調査』より、個人消費の動向を支出者側からみると(図表1)、9月の勤労者世帯消費支出(津市)は前年比 11.9%と3か月連続の減少。品目別にみると、ブレの大きい住居(同+319.8%)が6か月振りに増加した一方、自動車購入費などの交通・通信(同-42.8%)が3か月連続のマイナスに。

次に、『大型小売店販売』より、個人消費の動向を販売者側からみると(図表2)、9月の大型小売店販売額(百貨店とスーパーの合計額)は、全店ベース(前年比+4.0%)が2か月連続の増加。さらに、既存店ベース(同-0.5%)も、依然としてマイナスながら下げ幅は前月(8月:同-1.2%)から縮小しており、消費増税前の駆け込み需要に対する反動は着実に解消に向かっていると判断。全店ベースを商品別にみると、飲食料品(同+3.3%)が19か月連続の増加と堅調な動きが持続したほか、衣料品(同+4.7%)が6か月振りの増加。

10月の新車乗用車販売台数(含む軽)は(図表3)、6,481台・前年比-13.5%と4か月連続の減少。消費増税前の駆け込み需要に対する反動が根強く残っていると判断。車種別にみると、普通車(同-2.7%)が2か月振りの減少となったほか、小型車(同-22.2%)、軽乗用車(同-13.5%)もそれぞれ3か月連続、4か月連続の減少。

見通し

内閣府「景気ウォッチャー調査」より、三重県を含む東海地域における景気の現状判断(方向性)D.I.をみると、10月の家計部門(42.3)は7か月連続で「横ばい」を示す50を下回って推移。販売者側のコメントをみると、来客数はますますながら客単価が低下しており、消費増税以降、消費者は財布のひもを引き締めているとの声も。

今後の県内消費は、雇用・所得環境の改善などを背景にプラス基調を辿る見通し。なお、10月31日から始まったイオンモール鈴鹿のリニューアルでは、16店舗を新規導入、19店舗を移転・改装しており、こうした販売側の取り組みも消費の押し上げに作用する見込み。ただし、円安による輸入品価格の上昇など、物価上昇に伴う実質購買力の低下が引き続き消費マインドの下押し要因として作用する懸念も。

9月 勤労者世帯・消費支出

前年比 11.9% (3か月連続の減少)

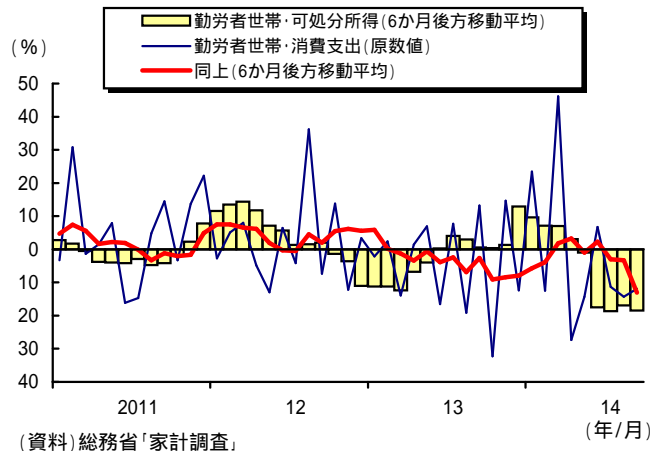
9月 大型小売店販売額

- ・全店 前年比 +4.0% (2か月連続の増加)
- ・既存店 前年比 0.5% (6か月連続の減少)

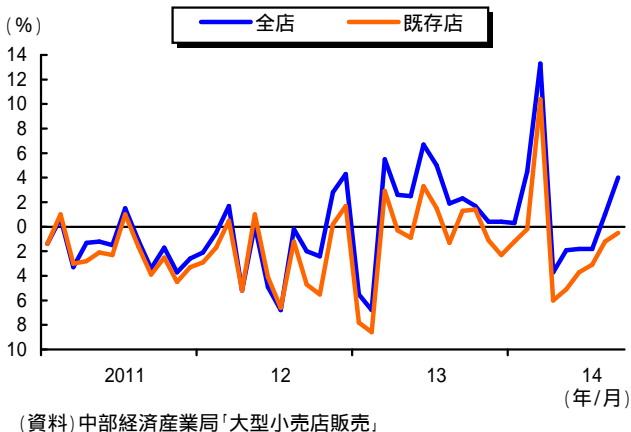
10月 新車乗用車販売台数<含む軽>

- 6,481台 前年比 13.5% (4か月連続の減少)
- ・普通車:1,949台 前年比 2.7% (2か月振りの減少)
- ・小型車:1,922台 前年比 22.2% (3か月連続の減少)
- ・軽乗用車:2,610台 前年比 13.5% (4か月連続の減少)

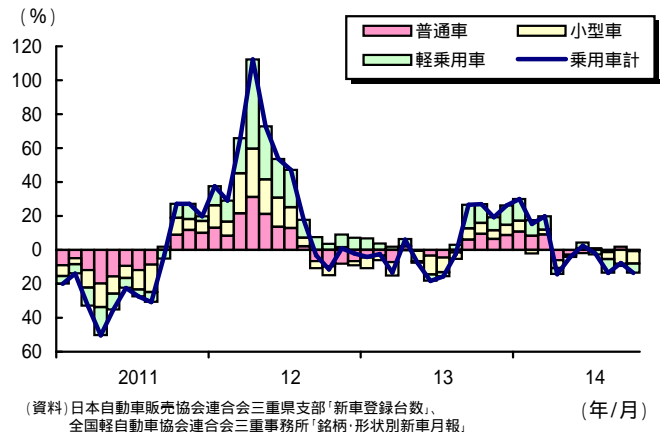
図表1 津市・消費支出等<前年比>



図表2 県内大型小売店販売額<前年比>



図表3 新車乗用車販売台数<前年比>



住宅投資	一進一退	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	
<p>現状 住宅投資は、一進一退。 9月の住宅着工戸数は(図表4)、814戸・前年比 5.3%と2か月振りの減少。利用目的別では、持家(同21.1%)が、消費増税前の駆け込み需要に対する反動が根強く残り、7か月連続の2ケタ減。もっとも、貸家(同+34.6%)は増加が持続したほか、分譲住宅(同+13.2%)では、2か月連続で分譲マンションに建設の動き。次いで、県内14市の着工戸数をみると、松阪市(55戸・同 38.2%)や亀山市(17戸・同 54.1%)が持家を中心に大きく減少。一方、名張市(49戸・同 +157.9%)は貸家が押し上げに寄与し、前年の約2.6倍まで増加。</p> <p>見通し 低水準のローン金利や所得環境の改善といった増加要因が挙げられるものの、駆け込み需要の反動が根強く残り、住宅投資は当面低い水準で推移する見通し。さらに、2015年10月に予定されていた消費税率引き上げについて、政府は18か月延期する考えを示しており、駆け込み需要による押し上げ効果は当面見込めず。</p>			
<p>9月 住宅着工戸数 814戸 前年比 5.3% (2か月振りの減少) ・持家:441戸 前年比 21.1% (8か月連続の減少) ・貸家:253戸 前年比 +34.6% (2か月連続の増加) ・給与住宅:0戸 前年比 100.0% ・分譲住宅:120戸 前年比 +13.2% (3か月連続の増加)</p>		<p>図表4 新設住宅着工戸数<前年比></p> <p>(資料)国土交通省「建築着工統計」</p>	

観光	減少傾向	基調判断の前月との比較	↘
		水準評価	
<p>現状 観光は、減少傾向。 8月の三重県主要観光施設(15施設)の入込客数は(図表5)、前年比 17.7%と5か月連続の減少。とりわけ、伊勢志摩地域は同 30.9%と大きく落ち込んでおり、2013年からみられた伊勢神宮の式年遷宮に伴う押し上げ効果は、着実に剥落している状況。</p> <p>見通し 観光はこれまでの増勢から一服しつつも、各種イベントやキャンペーンの効果により底堅く推移する見通し。2014年4月に開館した三重県総合博物館Mie Muが11月16日に入館者数30万人を突破し、2014年度の年間目標である22万人を上回る水準に。このほか、10月14日には、鳥羽市で公設民営方式の農水産物直売所「鳥羽マルシェ」がオープンするなど、こうした県内の新施設に観光スポットとしての期待が高まっている状況。</p>			
<p>8月 三重県主要観光施設の入込客数 前年比 17.7% (5か月連続の減少)</p>		<p>図表5 三重県主要観光施設の入込客数<前年比></p> <p>(資料)東海財務局津財務事務所</p>	

雇用・所得	横這い	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	

現状

雇用・所得情勢は、横這い。

9月の求人倍率は(図表6)、有効求人倍率(季節調整値)が、1.17倍・前月比+0.01ポイントと5か月振りの上昇。有効求人数が5か月振りの増加となったほか、有効求職者数は5か月振りの減少に。さらに、新規求人倍率(同)も1.72倍・前月比+0.12ポイントと5か月振りの上昇。

9月の新規求人数は、学卒・パートを除くベースが(図表7)、前年比+4.1%と3か月振りに増加しており、一進一退の展開に。一方、パートは同 0.2%と鈍い動きが持続。学卒・パートを除くベースを業種別にみると、製造業(同 6.6%)は、電気機械(同 60.4%)が3か月連続の2ケタ減となったほか、食料品(同 25.3%)や業務用機械(同 51.4%)がそれぞれ、7か月連続、2か月連続のマイナスに。他方、非製造業は、建設業(同+14.8%)が6か月振りのプラスとなったほか、職業紹介・労働者派遣業を中心とするサービス業(同+6.9%)も3か月振りの増加と全体を押し上げ。

8月の所定外労働時間指数は(図表8)、前年比 6.5%と2か月連続で低下しており、製造業を中心とするこれまでの増勢が一巡。こうしたもと、名目賃金指数は同+1.2%と2か月連続の上昇。きまって支給する給与(同+0.5%)をみてもプラス基調を維持。

見通し

今後は、大規模工場における増産態勢やインフラ・防災関係の公共工事の増加を背景に、製造業や建設業における求人が持ち直していく見通し。ただし、雇用環境のボトルネックとして、労働力需給におけるミスマッチは依然として解消しておらず、求人数の増加が就業者数の押し上げに結びつきにくい状況が持続。

他方、所得についても、企業業績の回復や労働力需給の逼迫を受け、緩やかながら足もとの改善傾向が続くと判断。もっとも、実質ベースでは、物価の上昇が賃金の上昇を上回るペースで推移していることから、当面鈍い動きとなる見通し。

9月 求人倍率<季節調整値>

- ・有効求人倍率: 1.17倍
前月比 +0.01ポイント (5か月振りの上昇)
- ・新規求人倍率: 1.72倍
前月比 +0.12ポイント (5か月振りの上昇)

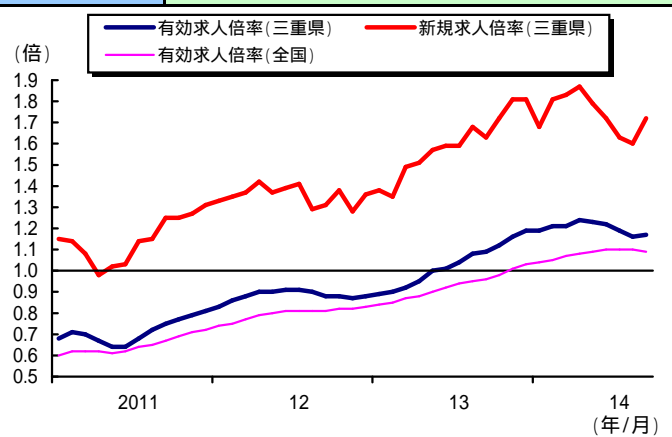
9月 新規求人数<学卒・パートタイム除く>

6,892人 前年比 +4.1% (3か月振りの増加)

8月 雇用・所得関連指標<調査産業計>

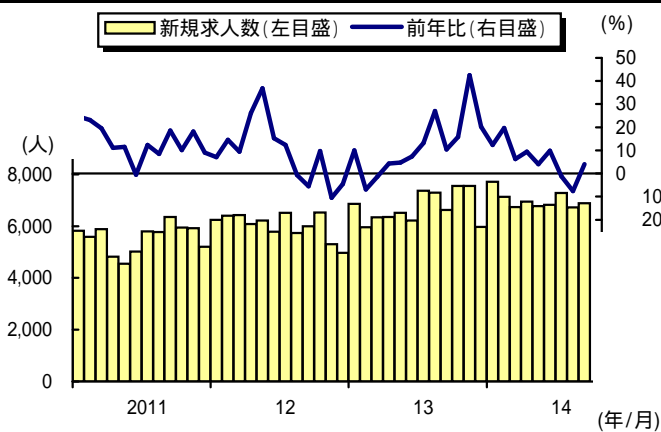
- ・常用雇用指数
前年比 1.8% (5か月連続の低下)
- ・所定外労働時間指数
前年比 6.5% (2か月連続の低下)
- ・名目賃金指数
前年比 +1.2% (2か月連続の上昇)

図表6 有効・新規求人倍率<季節調整値>



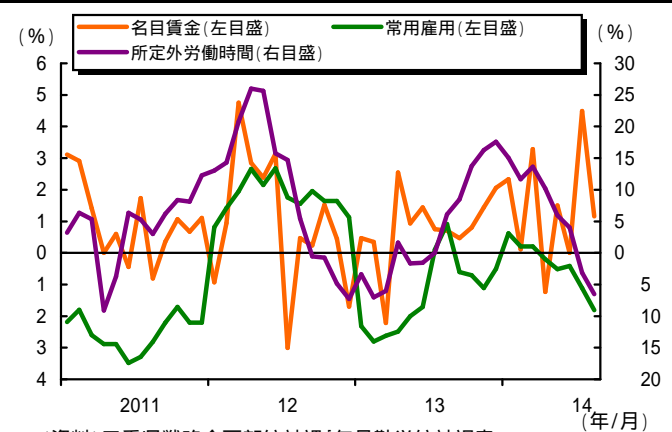
(資料)三重労働局「労働市場月報」

図表7 新規求人数<学卒・パート除く>



(資料)三重労働局「労働市場月報」

図表8 雇用・労働時間・賃金指数<調査産業計、前年比>



(資料)三重県戦略企画部統計課「毎月勤労統計調査」

3. 個別部門の動向: 企業部門

企業活動	好調	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	

現状

企業の生産活動は、好調。

8月の鉱工業生産指数は(図表9)、前年比+3.9%と9か月連続の上昇。業種別では、電子部品・デバイス(同+25.4%)が9か月連続の上昇と引き続き県内生産を牽引しているほか、はん用・生産用・業務用機械(同+6.8%)が17か月連続の上昇と押し上げに寄与。一方、輸送機械(同-23.3%)は全体を大きく押し下げており、消費増税後における国内乗用車需要の減速を背景に自動車生産は鈍い動きが持続していると判断。

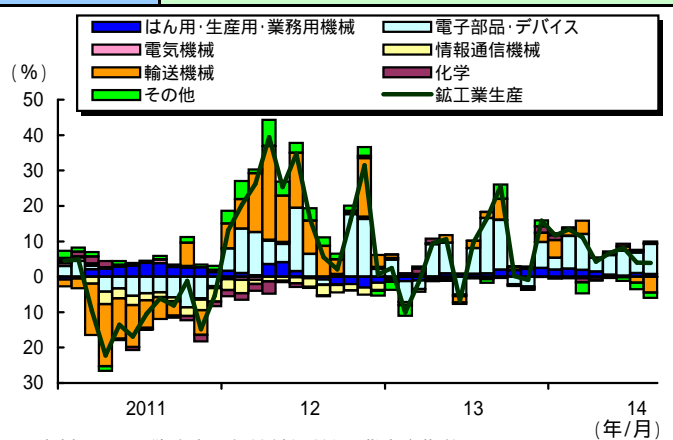
見通し

足もと県内生産の牽引役となっている電子部品・デバイスは、スマートフォン向け需要の高まりを受け大規模工場が好調に稼働するなか、今後も堅調に推移する期待が大。ちなみに、シャープでは「4K」映像に対応したスマートフォン向け液晶パネルの開発について発表。亀山第2工場において2016年度から量産を開始する計画。一方、輸送機械は、消費増税後における国内乗用車需要の低迷や大手メーカーの海外生産に伴う輸出の減少がマイナス要因となり、当面鈍い動きが続く見通し。

8月 鉱工業生産指数

- 前年比 +3.9% (9か月連続の上昇)
- ・はん用・生産用・業務用機械工業
 - 前年比 +6.8% (17か月連続の上昇)
- ・電子部品・デバイス工業
 - 前年比 +25.4% (9か月連続の上昇)
- ・電気機械工業
 - 前年比 +8.3% (2か月連続の上昇)
- ・情報通信機械工業
 - 前年比 +1.5% (2か月連続の上昇)
- ・輸送機械工業
 - 前年比 -23.3% (2か月連続の低下)
- ・化学工業
 - 前年比 +5.4% (4か月連続の上昇)

図表9 鉱工業生産指数 < 前年比 >



(資料)三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」

企業倒産	小康状態	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	

現状

企業倒産は、小康状態。

10月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、件数は(図表10)、11件・前年差+1件と2か月連続の増加。水準をみても、5か月振りの2ケタ台に。もっとも、負債総額で見れば、864百万円・同-213百万円と8か月連続で減少しており、小康状態を維持していると判断。

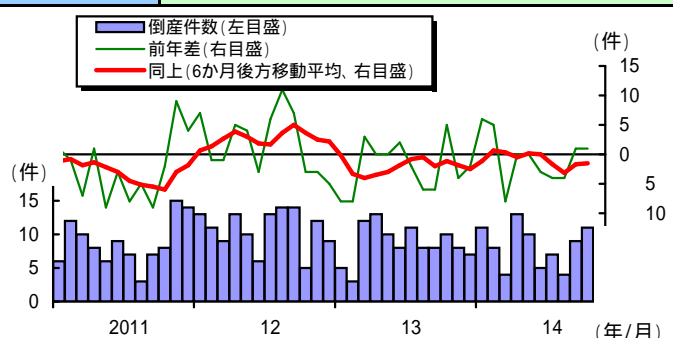
見通し

県内倒産件数は、当面小康状態が続くと判断。すなわち、景気の持ち直しを背景に、県内企業の業況は改善していく見通し。ただし、マイナス要因として、人手不足を背景とする賃金上昇や円安に伴う資材高騰など、コストの高止まりが懸念され、一部中小・零細企業の経営環境は厳しさが増す可能性も。

10月 企業倒産

- ・倒産件数: 11件
 - 前年差 +1件 (2か月連続の増加)
- ・負債総額: 864百万円
 - 前年差 -213百万円 (8か月連続の減少)

図表10 倒産件数 < 負債総額1,000万円以上 >



(資料)㈱東京商工リサーチ津支店

設備投資	低調	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	
<p>現状 企業の設備投資は、低調。 9月の非居住用建築物着工床面積は(図表11)、前年比 39.8%と3か月連続の減少。このほか、機械設備などの資本財生産指数をみると、8月は同 13.2%と5か月連続の低下。もっとも、10月の貨物車登録台数(除く軽)は、465台・同 +18.0%と6か月連続の増加。</p> <p>見通し 企業の業績が回復基調を辿るとみられるなか、今後の設備投資は緩やかながらも持ち直しに向かうと判断。 11月7日、経済産業省が、石油化学産業の市場構造について、生産設備の集約・再編による生産効率の向上が業界の課題であるとする調査報告を公表。石油化学産業は四日市コンビナートを有する三重県の主要産業であり、今後の設備投資をみるうえでも、業界全体の動向に注視する必要あり。</p>			
<p>9月 非居住用建築物着工床面積 前年比 39.8% (3か月連続の減少)</p>		<p>図表11 非居住用建築物着工床面積</p>	
<p>(資料)国土交通省「建築着工統計」</p>			

4. 個別部門の動向:海外部門

輸出	一進一退	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	
<p>現状 輸出は、一進一退。 9月の四日市港通関輸出額をみると(図表12)、899億円・前年比 +1.9%と2か月振りの増加。 品目別にみると、石油製品(105億円・同 18.2%)や有機化合物(72億円・同 3.9%)など石化関連に鈍さがみられたほか、半導体等電子部品(1億円・同 96.0%)が中国・韓国向け的大幅な落ち込みを受け、前年同月の4%程度にまで縮小。一方、液晶デバイスを含む科学光学機器(65億円・同 +302.8%)は中国向けを中心に前年同月の約4倍に。さらに、自動車関連をみると、乗用車(35億円・同全増)が3か月振りの増加となったほか、自動車の部分品(86億円・同 9.1%)も減少ながらマイナス幅が前月(8月:同 27.9%)から縮小。</p> <p>見通し 先行きの輸出は中国向け科学光学機器が引き続き押し上げに作用すると見通し。一方、現地生産化の進む自動車関連においては、円安の押し上げ効果を受けにくい状況が続くとみられ、足もとの鈍さが持続する可能性も。</p>			
<p>9月 四日市港通関輸出額 899億円 前年比 +1.9% (2か月振りの増加) ・石油製品:105億円 前年比 18.2% (3か月振りの減少) ・有機化合物:72億円 前年比 3.9% (2か月振りの減少) ・電気回路等の機器:55億円 前年比 10.7% (5か月連続の減少) ・乗用車:35億円 前年比 全増 (3か月振りの増加) ・自動車の部分品:86億円 前年比 9.1% (5か月連続の減少) ・科学光学機器:65億円 前年比 +302.8% (8か月連続の増加)</p>		<p>図表12 四日市港通関輸出額 <前年比></p>	
<p>(資料)名古屋税関四日市支署「管内貿易概況」</p>			

5. 個別部門の動向: 公共部門

公共投資	足踏み	基調判断の前月との比較	↘
		水準評価	
<p>現状 公共投資は、足踏み。 10月の公共工事請負状況をみると、請負件数は、前年比 28.2%と2か月振りの減少。他方、請負金額も(図表13)、同 25.5%と2か月振りの減少となっており、県内公共投資は足踏みの状態に。</p> <p>見通し 今後の公共投資は、新名神高速道路や東海環状自動車道などのインフラに加え、防災関連事業を中心に着実に増加していく見通し。 ただし、建設業の人手不足は依然として解消しておらず、今後も公共投資のボトルネックとなる可能性が大。ちなみに、資材費や人件費の高騰から入札不調が続いた「津市産業・スポーツセンター整備事業」について、津市は、予定価格を前回から約9億1,600万円上回る約89億5,800万円とし4回目の入札を公告。</p>			
<p>10月 公共投資 ・公共工事請負件数: 395件 前年比 28.2% (2か月振りの減少) ・公共工事請負金額: 12,203百万円 前年比 25.5% (2か月振りの減少)</p>		<p>図表13 公共工事請負金額</p> <p>(資料) 東日本建設業保証㈱三重支店</p>	

6. 個別部門の動向: その他

物価	上昇	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	
<p>現状 物価は、上昇。 9月の三重県消費者物価指数(CPI、5市平均・生鮮食品を除く)をみると(図表14)、前年比+2.9%と16か月連続の上昇。品目別にみると、電気・ガス代を含む光熱・水道(同+7.7%)やガソリンを含む交通・通信(同+2.6%)など、エネルギー関連が引き続き押し上げに作用。さらに、円安の影響もあり、食料(生鮮食品を除く、同+3.8%)や教養娯楽(同+4.5%)の上昇傾向が持続するなど、エネルギー関連以外も上昇が持続。</p> <p>見通し 先行きの消費者物価は、足もと円安基調が続くなかで、輸入価格の高止まりなどを背景とする物価上昇が当面続く見通し。さらに、景気回復に伴う賃金の上昇がみられるなど、今後、個人消費の持ち直しが期待されるなか、需給ギャップの縮小は今後も物価の押し上げに作用すると判断。</p>			
<p>9月 消費者物価指数<生鮮食品を除く> 前年比 +2.9% (16か月連続の上昇) ・食料(生鮮食品を除く) 前年比 +3.8% (10か月連続の上昇) ・住居 前年比 0.4% (25か月連続の低下) ・光熱・水道 前年比 +7.7% (45か月連続の上昇) ・交通・通信 前年比 +2.6% (18か月連続の上昇) ・教養娯楽 前年比 +4.5% (12か月連続の上昇)</p>		<p>図表14 消費者物価指数<前年比></p> <p>(資料) 三重県戦略企画部統計課「消費者物価指数」</p>	

県内経済



トピックス

(2014年10月)

1. 三重銀総研「第37回 経営者アンケート」で、企業の景況感は大幅に悪化

10月8日、三重銀総研が、9月上旬から中旬にかけて三重銀経営者クラブ会員を対象に実施した「第37回 経営者アンケート」の内容をプレスリリース。なお、対象は資本金1億円以下の三重県下法人企業1,078社で、回答社数は427社、回収率は39.6%。

企業の景況感を示す県内景気判断D.I.をみると、2014年度上期(2014年4月～9月)は13.1と、2013年度下期(2013年10月～2014年3月)の+33.7から46.8ポイント悪化。この背景には、消費増税前の駆け込み需要からの反動を受け、個人消費や住宅購入が落ち込んだこと、円安による輸入価格上昇を受け、仕入コストが増加したこと、などが挙げられ、調査開始以来最大の悪化幅に。一方、2014年度下期(2014年10月～2015年3月)の見通しをみると、+2.3と再びプラスに。

今回、特別調査として、県内中小企業の雇用に関し、「人材確保への対応」と「外国人雇用」の2つについて質問。直近1年間の新規採用計画とその結果については、4割近くの企業が「採用を計画したが、全く採用できなかった」、もしくは「採用を計画したが、計画通りの人数は採用できなかった」と回答。また、今後の対応策には、「給与の引き上げなど、処遇の改善」を挙げる企業の割合が最多に。

外国人雇用への方針について質問したところ、「既に雇用している」、もしくは「雇用していないが、検討している」と回答する企業の割合は約3割にとどまる結果に。

2. 東急ハンズが三重県での初出店について発表

10月8日、全国・海外で総合専門小売業を展開する東急ハンズ(東京都)が、2015年春に「東急ハンズ桑名店(仮称)」を出店すると発表。場所はイオン桑名ショッピングセンター内で、店舗面積は約2,200㎡。

三重交通のグループ会社で、名古屋市内の東急ハンズ2店舗をフランチャイズチェーン展開している三交クリエイティブ・ライフ(名古屋市)の全額出資会社が、桑名店(仮称)を運営。東海3県では3店舗目、三重県内では初の出店となり、名古屋のベッドタウンである桑名市において、多くの来客が期待される状況。

3. 近鉄の観光特急「しまかぜ」が京都・伊勢志摩間での定期運行を開始

10月10日、近畿日本鉄道が観光特急「しまかぜ」において、京都駅(京都市) - 賢島駅(志摩市)間での定期運行を開始。「しまかぜ」は2013年3月に大阪難波駅(大阪市) - 賢島駅間、近鉄名古屋駅(名古屋市) - 賢島駅間で運行を開始し、伊勢志摩地域への観光特急として連日満席となる盛況ぶり。

今回の定期運行開始にあわせて、「しまかぜ」内で提供される新サービスもスタート。車内無線LANを用いて、走行中の列車前方からの映像や沿線の観光情報など独自の映像コンテンツを配信するほか、車内カフェにおいて、近鉄沿線にある人気店のスイーツを販売。

4. 四日市市と高等教育機関が「(仮称)四日市公害と環境未来館」に関する協定を締結

四日市市が2015年3月の開館を予定している「(仮称)四日市公害と環境未来館」について、同市と三重大学、四日市大学、鈴鹿工業高等専門学校、名古屋大学大学院環境学研究科が同館の活用を図るための協定を締結。

同館は、四日市市立博物館の1階(学習エリア)、2階(展示エリア)と、隣接する公益財団法人三重北勢地域地場産業振興センターの2階(活動エリア)に設置される予定。協定には、環境教育関連の講義における同館利用のほか、講師の相互派遣、公害や環境に関する研究資料・情報の相互利用などが盛り込まれており、都市と環境が調和するまちづくりに向けて、市と高等教育機関との連携が進められる方針。

以上

景 気 指 標

三重銀総研
2014/11/21

< 三重県 >

(注) ()内は前年(同期(月))比 < >内は季節調整前期(月)比

	2012年	2013年	2013年				2014年				
			10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	6月	7月	8月	9月	10月
鉱工業生産指数	(18.4)	(5.3)	(4.5)	(12.0)	(6.4)		(8.1)	(4.0)	(3.9)		
生産者製品在庫指数	(33.8)	(11.9)	(37.3)	(25.1)	(15.2)		(9.7)	(10.8)	(30.4)		
大口電力消費量 (百万KWh)	9,034 (3.3)	8,958 (0.8)	2,266 (2.3)	2,138 (1.0)	2,206 (0.5)	2,390 (0.4)	768 (1.4)	832 (1.4)	777 (0.3)	781 (0.0)	805 (0.3)
新設住宅着工戸数(戸)	9,554 (1.7)	10,738 (12.4)	3,236 (25.0)	2,460 (5.1)	2,328 (11.2)	2,434 (4.2)	941 (2.7)	738 (17.5)	882 (12.2)	814 (5.3)	
非居住用建築物着工床面積(千㎡)	757 (13.5)	900 (18.9)	206 (16.0)	169 (28.5)	156 (27.3)	161 (33.7)	74 (5.0)	43 (29.5)	62 (30.2)	56 (39.8)	
公共工事請負金額(億円)	1,613 (20.9)	1,635 (1.4)	365 (5.2)	266 (13.1)	413 (14.1)	619 (2.7)	178 (30.2)	228 (11.1)	163 (16.1)	228 (12.1)	122 (25.5)
大型小売店販売額(全店)	(1.3)	(1.2)	(0.8)	(5.8)	(2.4)	(1.0)	(1.8)	(1.8)	(1.0)	(4.0)	
同(既存店)	(2.4)	(1.1)	(0.8)	(2.9)	(4.9)	(1.7)	(3.7)	(3.1)	(1.2)	(0.5)	
新車販売台数(軽を除く、台)	63,113 (21.4)	60,364 (4.4)	14,954 (21.7)	21,105 (19.6)	11,666 (8.5)	14,399 (4.1)	4,650 (1.1)	5,109 (3.5)	3,672 (7.9)	5,618 (7.7)	4,434 (11.0)
うち乗用車販売台数(台)	57,263 (22.3)	54,184 (5.4)	13,443 (23.8)	19,064 (19.6)	10,330 (9.1)	12,564 (6.5)	4,122 (2.0)	4,506 (1.6)	3,189 (9.5)	4,869 (11.1)	3,871 (13.5)
新車軽自動車販売台数(台)	44,757 (36.4)	48,613 (8.6)	11,659 (20.1)	16,833 (20.6)	10,665 (2.4)	10,804 (10.5)	4,037 (4.0)	3,738 (8.5)	2,578 (20.4)	4,488 (5.4)	3,324 (10.7)
うち乗用車販売台数(台)	35,870 (43.9)	39,700 (10.7)	9,431 (24.2)	14,317 (22.7)	8,781 (0.1)	8,974 (8.6)	3,302 (8.7)	3,128 (6.7)	2,112 (19.1)	3,734 (3.1)	2,610 (13.5)
有効求人倍率(季調済)	0.88	1.03	1.15	1.21	1.23	1.17	1.22	1.19	1.16	1.17	
新規求人倍率(季調済)	1.34	1.58	1.78	1.77	1.79	1.65	1.72	1.63	1.60	1.72	
新規求人数(学卒・パート除く、人)	72,228 (8.3)	80,626 (11.6)	21,092 (25.6)	21,585 (12.6)	20,546 (7.7)	20,903 (1.8)	6,821 (9.8)	7,279 (1.3)	6,732 (7.7)	6,892 (4.1)	
名目賃金指数(調査産業計)	(0.7)	(0.9)	(1.6)	(1.9)	(0.1)		(0.0)	(4.5)	(1.2)		
実質賃金指数(同)	(0.5)	(0.4)	(0.2)	(0.6)	(3.5)		(3.7)	(0.3)	(3.0)		
所定外労働時間(同)	(9.4)	(3.4)	(15.9)	(13.4)	(6.8)		(4.0)	(3.1)	(6.5)		
常用雇用指数(同)	(1.8)	(1.3)	(0.8)	(0.3)	(0.4)		(0.4)	(1.1)	(1.8)		
企業倒産件数(件)	129	103	25	23	28	20	5	7	4	9	11
(前年同期(月)差)	(24)	(26)	(1)	(3)	(3)	(7)	(3)	(4)	(4)	(1)	(1)
県内外国貿易 純輸出(百万円)	1,042,537	1,121,759	299,083	388,352	353,478	370,432	111,418	120,851	124,958	124,623	
輸出(百万円)	1,014,956 (6.5)	1,131,212 (11.5)	296,561 (16.3)	275,650 (0.9)	255,622 (12.8)	274,703 (2.4)	82,457 (15.4)	92,602 (11.8)	85,278 (2.3)	96,823 (1.2)	
四日市港 輸出(百万円)	909,974 (7.5)	1,039,647 (14.3)	269,091 (18.5)	248,218 (0.2)	239,609 (11.1)	256,202 (1.5)	76,350 (10.4)	87,539 (9.1)	78,742 (6.3)	89,920 (1.9)	
輸入(百万円)	2,057,493 (4.4)	2,252,971 (9.5)	595,644 (28.8)	664,002 (18.6)	609,100 (14.8)	645,135 (13.8)	193,875 (40.1)	213,454 (33.3)	210,236 (3.4)	221,445 (8.8)	
消費者物価指数・除く生鮮(三重県)	(0.2)	(0.4)	(0.9)	(1.0)	(2.8)	(3.1)	(2.9)	(3.3)	(3.3)	(2.9)	
同(津市)	(0.2)	(0.4)	(0.9)	(1.0)	(2.7)	(3.1)	(2.8)	(3.3)	(3.2)	(2.9)	

< 東海3県(三重・愛知・岐阜) >

	2012年	2013年	2013年				2014年				
			10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	6月	7月	8月	9月	10月
鉱工業生産指数	(9.4)	(0.6)	(6.6)	(9.5)	(2.4)	(3.2)	(4.8)	(3.7)	(0.5)	(5.0)	
新設住宅着工戸数(戸)	76,468 (0.6)	87,806 (14.8)	23,995 (11.3)	19,002 (4.3)	18,755 (10.7)	18,767 (18.2)	6,192 (26.5)	6,118 (16.4)	5,924 (25.9)	6,725 (11.9)	
大型小売店販売額(全店)	(0.5)	(1.0)	(1.7)	(8.1)	(1.9)	(1.8)	(0.1)	(0.2)	(1.9)	(3.6)	
同(既存店)	(0.9)	(0.7)	(1.3)	(7.6)	(2.6)	(0.6)	(0.7)	(0.6)	(0.5)	(2.0)	
有効求人倍率(季調済)	1.04	1.21	1.35	1.41	1.45	1.42	1.46	1.44	1.41	1.39	
新規求人倍率(季調済)	1.58	1.87	2.07	2.13	2.14	2.06	2.19	1.99	2.06	2.13	
企業倒産件数(件)	1,086	1,015	246	240	236	186	69	67	52	67	72
(前年同期(月)差)	(92)	(71)	(30)	(15)	(30)	(62)	(18)	(49)	(9)	(4)	(31)
域内外国貿易 純輸出(億円)	50,108	60,891	16,610	11,701	14,243	14,711	4,915	5,596	3,824	5,292	
輸出(億円)	132,058 (8.4)	151,826 (15.0)	40,288 (23.7)	37,453 (8.2)	37,827 (1.9)	39,935 (4.1)	12,510 (4.1)	14,167 (9.4)	11,825 (3.8)	13,943 (6.2)	
輸入(億円)	81,950 (5.3)	90,936 (11.0)	23,678 (22.0)	25,753 (19.7)	23,584 (5.6)	25,223 (7.7)	7,595 (13.8)	8,571 (9.3)	8,001 (4.0)	8,651 (9.8)	